

平成 30 年 6 月 4 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H03230

研究課題名(和文) 近世アジアと砂糖の世界史：砂糖の生産・国際流通・消費文化に関する国際共同研究

研究課題名(英文) Early Modern Asia and the World History of Sugar: An International Research on Sugar Production, Trade and Consumption Culture

研究代表者

島田 竜登 (Shimada, Ryuto)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・准教授

研究者番号：80435106

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、グローバル化が進展しつつも、本格的な工業化や植民地化が開始される直前期にあたる17・18世紀を中心とした近世期のアジア社会の多様性、アジア域内及び世界との連関性、さらにはそれらの変容を明らかにすることを目的とした。事例として、とくにアジアでの砂糖の生産・国際流通・消費文化を分析し、これをベースにして砂糖以外の題材からも近世アジア社会へのグローバル・ヒストリー的アプローチを試み、当該期のアジア社会の重要性を明確化させた。

研究成果の概要(英文)：This research project analyzed a variety of dynamic transformation of Asian societies and the connections of Asian societies with other Asian societies and the world economy during the early modern period from the 17th to the 18th centuries, when the globalization proceeded just before the industrialization and colonization globally began on a large scale since the mid-19th century. For this purpose, the project investigated a sample set of the production, trade and consumption culture of sugar in Asia. Finally, based on the research on the cases of sugar and others, the project examined the significance of Asian societies in the early modern period from global history perspectives.

研究分野：東洋史学

キーワード：砂糖 東インド会社 プランテーション 消費文化 近世アジア 交流史 グローバル・ヒストリー
比較史

1. 研究開始当初の背景

現在までに至るグローバル化の開始時期に関しては諸説あるが、ひとつの有力な見解として、15世紀末からのいわゆる大航海時代に始まったとする見解がある。グローバル化により、各々のローカルな地域社会は人・モノ・カネ・情報の各面において結びつけられた。こうした数百年にわたるグローバル化が、ローカルな地域社会にいかなる社会的・文化的変容をいかに迫ったのかは、適切な事例地域を挙げ、実証的レベルから考察する必要がある。

たとえば、近世期からのグローバル化ということでは、アンドレ・グンダー・フランクの『リオリエント』(藤原書店、2000年;原著は1998年)が挙げられよう。本書は、本来豊かさに富むアジア社会に西洋が参入してきたという見取り図を提示し、大航海時代という言葉が描き出す西洋中心主義的発想とは異なる斬新な世界史像を示した。とまれ、どのような見方をとるにせよ、近世期から確かにグローバル化の流れが進展し、現在まで加速度的に進んできたという見方は検証に値する。

しかし、フランクを含め、近年のグローバル・ヒストリーと称する、グローバル化の歴史的考察は、具体的かつ実証的分析を意外なほど度外視して展開されてきたといえるのではないだろうか。本共同研究は、こうした旧来のグローバル・ヒストリー研究に対する批判的視点を維持しながら、砂糖という具体的事例をもとに、それを質的に向上させる試みである。

2. 研究の目的

本共同研究は、近世期のアジア経済・社会をグローバル・ヒストリーの文脈から実証的に解釈しなおすことを主要課題とした。このため、第一に、砂糖を題材として、この主要課題について具体的かつ実証的に検討すること、第二に、この砂糖を事例とした分析の延長上に、グローバル・ヒストリー的に近世アジア史を再考することの2つを研究の目的とした。

砂糖を取り上げる理由としては、これまでの研究ではいわゆる近世期においてアフリカからの奴隷労働力を酷使して新大陸で生産された砂糖がイギリスをはじめとした西洋諸国に輸入され、旧来は奢侈品であったものが19世紀までに大衆品にまでなり、産業革命期の労働者を支える嗜好品として愛用されたという。これをイギリス史家の川北稔は『砂糖の世界史』(岩波書店、1996年)として論じた。しかし、当該期には、砂糖は新大陸ばかりでなく、アジアの各地でも生産されていた。ただし、アジア砂糖の場合は大部分がアジア内で消費されるため、西洋史家の目にはアジア砂糖は目に留まらなかったのである。本来はアジア砂糖の生産・消費の文化をも含めて、近世世界の砂糖の世界史を再

構築し、本格的な工業化や植民地化の直前期においてアジアや世界の社会がいかに変容してきたのかを検討してみることは意義のあることであると考えたからである。

かくして、本共同研究の目的の特色としては、次の3点にまとめることができよう。

第一に、実証的グローバル・ヒストリー研究として、近世アジアの砂糖を事例として実証研究を進めるとい研究枠組みが独創的であるといえる。また、アジア各地域のローカルな砂糖の生産と消費文化をも扱うことで、グローバル化の進展に伴うローカルな社会の変容を史実に基づいて考察することが可能になる。

第二に、従来あまり利用されてこなかった重要史料であるオランダ東インド会社文書の利用が一大特色となっている。加えて、日本語史料、中国語史料、マレー語史料、ペルシア語史料などといったアジア現地語史料をも同時に用いるマルチ・アーカイブな手法を使うことで、単なる推測にすぎない歴史研究を排除し、実証的に研究をおこなうことを可能ならしめ、研究水準を大幅に向上させるものとなっている。

第三に、なお、グローバル化過程における日本の位置付けを試みることを本共同研究では可能となっている点も強調したい。砂糖を事例とすることで、いわゆる鎖国期の日本をグローバル・ヒストリー研究の考察対象とすることができ、世界の中の日本の位置付けを長期的に考察しうるのである。

3. 研究の方法

本共同研究は、17世紀から18世紀までを中心として、アジアの砂糖ならびにアジア近世史一般について以下の諸点を明らかにすることを目指した。

研究事項 「砂糖生産の動向」:

日本、中国、台湾、インドネシア(ジャワ)、インド(ベンガル)における砂糖の生産量、生産技術、労働者、生産システムを解明する。

研究事項 「砂糖の国際貿易」:

中国人商人やマレー人商人といったアジア系商人やオランダ東インド会社、イギリス東インド会社、ヨーロッパ系自由貿易商人ごとの貿易量や彼らの競争関係を明らかにする。

研究事項 「砂糖の消費文化」:

日本、中国、インドネシア(ジャワ)、インド、イランにおける砂糖の国内流通、砂糖消費に関する料理・菓子の文化、精白糖でない地元の砂糖消費文化を検討する。

研究事項 「グローバル・ヒストリー的文脈における近世アジア」:

研究課題 ~ の検討結果を用いて、アジアを含めた砂糖の世界史を概観するほか、近世アジア史を世界史的に位置づけしなおす作業を行う。

なお、実証的な分析に関しては、とりわけオランダ国立公文書館とインドネシア国立

公文書館の所蔵するオランダ東インド会社文書を多用した。そのほか、英国図書館の所蔵するイギリス東インド会社文書、さらには日本語やペルシア語などのアジア言語による技術書、貿易関係文書なども用いた。

4. 研究成果

研究事項 ~ について、研究代表者、研究分担者、研究協力者の各自が得意とするアジア地域ならびに史料を用いて実証研究を行った。特に第2年度の2016年7月末に東京で国際ワークショップを開催し、研究の進捗状況の確認などを行い、国際共同研究として統一感のある研究内容や成果をうみ出すためのすり合わせを行った。

17・18世紀を中心とした近世期に、中国、日本、インドネシア(ジャワ)、インドといったアジア各地における砂糖生産は活発化した。アジアで生産された砂糖はヨーロッパ市場にもたらされたほか、中国、日本、インド、イランといったアジア内部での多量に消費されるようになった。砂糖はアジア域内貿易における主要商品であったとともに、その生産ならびに消費の増大は、当該期のアジア社会の成熟を裏付ける事象であった。また、精白糖以外の砂糖生産と消費の重要性も明らかとなった。アジアにおいては、黒砂糖といったサトウキビから生産される砂糖のほか、ヤシ砂糖などの生産や消費も重要であったのである。すなわち、精白糖のごとき世界商品のほかに、他の砂糖がアジアにおける甘味商品として補完し、アジアの多様な甘味文化を形成していたのであった。

さらに研究事項 については、グローバル・ヒストリーの文脈に、本研究が砂糖を事例として分析した近世アジア社会一般の事項、すなわち生産、流通、消費の状況を踏まえて、日本を含む当該期アジアの世界史的重要性を明らかにした。

なお、研究成果はすでに論文や図書で公表されているが、そのほかに、アジア砂糖に関する英語の論文集1冊ならびに近世アジアをグローバル・ヒストリー的文脈に新たに位置づけることを試みる日本語の論文集2冊を刊行する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計11件)

Ryuto Shimada, "Beyond Diplomacy: Japan and Vietnam in the 17th and 18th Centuries", The Newsletter, The International Institute of Asian Studies (IIAS), No. 79, 2018, pp. 36-37.

Ryuto Shimada, "Invisible Links: Maritime Trade between Japan and South Asia in the early Modern Period", A.J.H.

Latham and Heita Kawakatsu (eds.), *Asia and the History of the International Economy: Essays in Memory of Peter Mathias*, London and New York: Routledge, 2018, pp. 57-71.

島田竜登「史上初のグローバル・カンパニーとしてのオランダ東インド会社」羽田正編『グローバル・ヒストリーの可能性』山川出版社、2017年、287-303頁

島田竜登「ケンペルとシャム 一七世紀末のタイ・アユタヤ朝の一断面」川分圭子・玉木俊明編『商業と異文化の接触 中世後期から近代におけるヨーロッパ国際商業の生成と展開』吉田書店、2017年、777-798頁

島田竜登「近世海域アジア世界とオランダ東インド会社の日本貿易」荒野泰典編『近世日本の国際関係と言説』溪水社、2017年、187-205頁

八百啓介「近代北部九州の産業社会と甘味」山辺規子編『食の文化フォーラム 35 甘みの文化』ドメス出版、2017年、111-114頁

島田竜登「モノに問う歴史学 グローバル・ヒストリーの一つの方法」『比較文明』32、2016年、39-55頁

Tomoko Morikawa, "Les Lieux de Commemoration et les funeraillles Qajar: Le Transport des Corps dans la societe chiite", Anna Caiozzo (ed.) *Mythes, rites et emotions: Les funeraillles le long de la Route de la soie*, Paris: Honore Champion, 2016, pp. 249-263.

八百啓介「江戸時代の菓子製法書に見られる餡」『和菓子』23、2016年、22-35頁

太田淳「マレー海域の貿易と移民：18-19世紀における構造変容」『中国 社会と文化』31、2016年、34-59頁

八百啓介「歴史手帖：菓子から見えてくる歴史」『日本歴史』807、2015年、16-18頁

[学会発表](計24件)

Ryuto Shimada, "Tainan as a Global Center: Global Trade and Agricultural Development by the Dutch East India Company in the Seventeenth Century", The Fifth International Conference on Tainan Area Studies: Political, Economic, and Cultural Development of the Early Tainan Region (10th-18th Century), 2017.

Ryuto Shimada, "Indonesians to Tokugawa Japan: Indonesian people at the Dutch

Trading Post in Nagasaki and Japanese Impression of Islam in the Early Modern Period”, Seminar at Faculty of Humanities, University of Indonesia, 2017.

Ryuto Shimada, “ Maritime Asian Trade in the Eighteenth Century from Global Perspectives ”, Seminar at the Department of Asia, Africa and Mediterranean, “ L ’ Orientale ” University of Naples, 2017.

Ryuto Shimada, “ Vietnamese Trade with Japan in the 17th and 18th Centuries ”, Conference: Vietnam and Korea as “Longue Durée” Subject of Comparison: From the Pre-modern to the Early Modern Periods, 2017.

Ryuto Shimada, “ Iranian Settlers in Ayutthaya for Intra-Asian Trade during the Seventeenth and Eighteenth Centuries ”, To the Seas and Beyond: An International Conference on the History of the Maritime Silk Road, 2016.

Ryuto Shimada, “ Java Connected with the Global Economy: A GIS-based Analysis of the International Trade of Java during the Nineteenth Century ”, The 5th International Conference on Asian Network for GIS-based Historical Studies: State of the Art in Historical G.I.S. in Asia, 2016.

Ryuto Shimada, “ The Sugar Trade by the Dutch East India Company and its Rivals for the Japanese Market in the Seventeenth and Eighteenth Centuries ”, Workshop: Maritime Worlds around the China Seas: Emporiums, Connections and Dynamics, 2016.

Ryuto Shimada, “ Another World History of Sugar: Sugar Trade and the Asian Economy in the Early Modern Period ”, Workshop: Sugar Culture in Asia in the Early Modern Period: Its Production, Trade and Consumption, 2016.

Ghulam A. Nadri, “ Sugar in Early Modern India: Production, Trade, and Consumption ”, Workshop: Sugar Culture in Asia in the Early Modern Period: Its Production, Trade and Consumption, 2016.

Murari Kumar Jha, “ The Merchant Communities in Eastern India during the Age of Maritime Commerce (1500-1800) ”, Workshop: Sugar Culture in Asia in the Early Modern Period: Its Production, Trade

and Consumption, 2016.

Tomoko Morikawa, “ Sugar for Sweets, Foods and Medicines in Early Modern Persia ”, Workshop: Sugar Culture in Asia in the Early Modern Period: Its Production, Trade and Consumption, 2016.

Shinsaku Kato, “ Sweets Consumption Culture in Early Modern India: The Case of Gujarat ”, Workshop: Sugar Culture in Asia in the Early Modern Period: Its Production, Trade and Consumption, 2016.

Hui-wen Koo, “ Taiwanese Sugar in the Dutch Colonia Era ”, Workshop: Sugar Culture in Asia in the Early Modern Period: Its Production, Trade and Consumption, 2016.

Keisuke Yao, “ Sugar Supply and Importation by the Dutch East India Company to Japan during the 18th Century ” Workshop: Sugar Culture in Asia in the Early Modern Period: Its Production, Trade and Consumption, 2016.

Atsushi Ota, “ Emergence of a Borderland Society: Migration and Opium Trade in the Sugar Industry in West Java, c. 1780-1800 ” Workshop: Sugar Culture in Asia in the Early Modern Period: Its Production, Trade and Consumption, 2016.

George Bryan Souza, “ Comments ”, Workshop: Sugar Culture in Asia in the Early Modern Period: Its Production, Trade and Consumption, 2016.

Ryuto Shimada, “ American Shipping at Batavia from the Late Eighteenth Century to the Mid-Nineteenth Century ”, Seventh International Congress of Maritime History Conference, 2016.

島田竜登「グローバル・ヒストリー研究におけるアフリカ」、日本アフリカ学会第53回学術大会、2016年

Ryuto Shimada, “ Describing the Early Modern World: Temporal and Spatial Analytical Problems and Solutions in Using the Dutch East India Company Records ”, Workshop: Scale Questions in Global History, 2015.

Ryuto Shimada, “ South Asian Settlers at Batavia in the Seventeenth and Eighteenth Centuries ”, XVIITH World Economic History Congress, 2015.

②① Ryuto Shimada, “Alexander Hamilton in the Intra-Asian Trade around 1700”, XVIII World Economic History Congress, 2015.

②② Ryuto Shimada, “Batavia in a Global Context, 1619-1799: Spatial Analysis of Trading Network, Ethnicity and Land-use of Batavia”, XVIII World Economic History Congress, 2015.

②③ Ryuto Shimada, “The Birth of Pacific Links in Southeast Asia: American Shipping at Batavia from the Late Eighteenth Century to the Mid-nineteenth Century”, XVIII World Economic History Congress, 2015.

②④ Ryuto Shimada, “Iranian Settlers in Ayutthaya and their Intra-Asian Trade in the Seventeenth Century”, Workshop on Maritime Worlds around the China Seas: Emporiums, Connections and Dynamics, 2015.

〔図書〕(計5件)

水島司・島田竜登『グローバル経済史』放送大学教育振興会、2018年、総ページ数232頁

Atsushi Ota, In the Name of the Battle against Piracy: Ideas and Practices in State Monopoly of Maritime Violence in Europe and Asia in the Period of Transition, Leiden and Boston: Brill Academic Publishers, 2018, 268p.

村松伸・島田竜登・籠谷直人編『歴史に刻印されたメガシティ』東京大学出版会、2016年、総ページ数272頁

守川知子編『移動と交流の近世アジア史』北海道大学出版会、2016年、総ページ数308頁

水島司・加藤博・久保亨・島田竜登編『アジア経済史研究入門』名古屋大学出版会、2015年、総ページ数390頁

6. 研究組織

(1) 研究代表者

島田 竜登 (SHIMADA, Ryuto)
東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授
研究者番号: 80435106

(2) 研究分担者

守川 知子 (MORIKAWA, Tomoko)
東京大学・大学院人文社会系研究科・准教

授

研究者番号: 00431297

八百 啓介 (YAO, Keisuke)
北九州市立大学・文学部・教授
研究者番号: 20212269

太田 淳 (OTA, Atsushi)
慶應義塾大学・経済学部・准教授
研究者番号: 50634375

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者(海外)

Bondan Kanumoyoso (University of Indonesia, Indonesia)

Murari Kumar Jha (Nalanda University, India)

Gerrit Knaap (Huygens Instituut voor Nederlandse Geschiedenis, The Netherlands)

Hui-wen Koo (National Taiwan University, Taiwan)

Ghulam A. Nadri (Georgia State University, USA)

George Bryan Souza (University of Texas at San Antonio)

Xu Guanmian (Leiden University, The Netherlands)